

サンデーサイエンス

カラー魚拓に挑戦

担当：動物研究室

1 内容

魚の生きているときの色彩を自分の感性を使って表現しながら、魚のカラーの魚拓に挑戦し、カラー魚拓の技法を習得する。

2 準備物

魚拓紙、アクリル絵の具、筆（平筆、細筆、面相筆）、絵の具用バケツ、パレット、捨て紙、紙粘土、霧吹き、新聞紙

3 手順

- (1) 魚の水滴をよく拭き取り、背びれ、腹びれの下に紙粘土を入れて、魚のからだを固定する。背びれ、腹びれ、尻びれの下に捨て紙を4枚敷く。
- (2) パレットに絵の具を出し、使う色の調合をする。色の好みは、自由な発想で楽しむ。濃、淡の色を調合する。
- (3) 魚のからだと胸びれを塗る。背側は強の色で塗り、胸びれと脇腹は白を基調とした弱の色で一気に塗っていく。次に、弱の色を使い、筆の重さだけで軽く逆ばけ（尾から頭方向に塗ること）でウロコとウロコの間絵の具を入れる。胸びれを強の色を中心に筆先を使って塗る。
- (4) 尻びれと背びれ、尾びれを塗る。尻びれはできるだけ色を濃くせずに塗る。背びれは先端や後側は薄く、付け根や前側は濃くすることで立体感を出すように塗る。尾びれは上側と下側で色を変えるようにたつぷりと塗っていく。捨て紙を1枚抜き、下の紙に色がついていないか確認する。目の上にスポンジや紙などでアイシャドウを入れる。
- (5) 拓紙のおもて面（つやのある面）に霧吹きをする。背から紙の位置を決め、尾から背へと押し当てていく。親指の腹で巻き込むように強めにかつ丁寧に押しつけていく。頭側の紙を押さえた手を離さずに魚体を回転し、腹側を押しつけていく。最後に尻びれを押しつけていく。頭側からゆっくり



カラー魚拓の道具

と色の乗りを確認しながらはがす。

(6) 腹びれは角度が違うので一気には押せないため、腹びれをはさみで魚体から切り取り、表裏に注意しながら、腹びれにお腹の色を塗る。ピンセットで拓紙に乗せて押す。

(7) 細い筆で薄い色を使い、まぶたの外側の線を書く。黒目の大きさを見て、目を書き入れる。



山本龍香氏による説明



拓布を魚体に貼り付ける作業



色づけの作業



仕上がり直前のカラー魚拓

4 注意点

- ・魚の体に絵の具を塗るときは、同じ厚みで塗るようにする。ひれのない部分は塗りむらが目立つので、まっすぐに丁寧に塗る。
- ・拓紙に霧吹きをし過ぎると滲んでしまうので注意する。
- ・押し忘れがあったときは、歯ブラシなどで押し直す。全部戻すと魚に残っている絵の具が付き、二度押しになるので注意する。
- ・目を書き込むときはにじまないように、絵の具が乾いてから、筆の水分を取って書く。目は全体のバランスを見て、書きすぎないようにする。

5 参考資料

カラーになって 魚拓も本望. 京都書院. 山本龍香